

基幹相談支援センター相談員の ソーシャルワーク力向上のための事例検討会



事例検討会の様子

活動の目的

- 1 | 相談支援ネットの相談員のソーシャルワーク力向上を目指す
- 2 | 事例検討会を通して理論と実践をつなぐことを学ぶ

連携にいたる経緯

企画者である狭間は、以前より堺市の基幹相談支援センターである相談支援ネットをソーシャルワーク研究のフィールドとして相互交流を行っていた。

特にインタビュー調査等にご協力をいただき、調査結果を論文として発表した。

活動内容

活動内容は大きく3つある。第1は、事例検討会の実施である。年に5回実施し、1回で一つの事例を取り上げた。検討会の進め方は「ホワイトボード・ミーティング®」の方法を参考にして実施した。

第2は、外部講師を招聘したワークショップや講演会の実施である。「アセスメントの方法」についてのワークショップ、「ホワイトボード・ミーティング®」についてのワークショップ、「アセスメントの実効力」についての講演会を行った。

第3は、報告書の作成である。2015年度から2017年度の3年間の事例検討会で取り上げた事例に関して、共通項目を抽出するという方法でまとめた。この方法を採用することで、相談員が抱える共通課題を浮き彫りにすることができた。

DATA

● 主な連携先・メンバー

堺市相談支援ネット（基幹相談支援センター）／関西大学人間健康学部教授 狭間香代子

● 活動地域

関西大学堺キャンパス

● 活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業



ワークショップの様子



グループワークの様子



講演会の様子

活動の成果

- 1 | 実践を言語化する力の向上
- 2 | 相談員が抱える課題の共通性の抽出

今後の課題・目標

- 1 | 相談員のスーパービジョン力の向上
- 2 | 基幹相談支援センターの機能強化

● 教員紹介



人間健康学部 教授 狭間 香代子(はざま かよこ)

ソーシャルワーク実践論を中心に教育・研究を行っており、ソーシャルワーカーの実践をいかに言語化するかについて関心がある。